

# 令和6年度行政評価（令和5年度対象）シート

## 政策5 魅力に満ちた活力のあるまちをつくる

### 施策501 観光の振興

主担当課：産業課

#### ○施策の目指す姿

地域資源を活用した観光の振興が図られ、地域の活力が醸成されるとともに、市外からの来訪者が増加しています。

#### ○施策の展開

- 魅力あるまつりの開催
- 観光施設の魅力向上の推進
- オリジナル土産品の開発・情報発信
- 観光地域づくりの推進
- レンタサイクルの運営
- 観光情報発信力の強化
- 観光活動を行う団体への支援

#### ○令和6年度 事務事業評価実施事業（令和5年度対象）

- 観光誘客促進費
- まちの観光・産業賑わいプロジェクト費
- レンタサイクル費
- 観光協会事業費補助金

## I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況

### ○施策の関連データ

清洲城の有料入場者数（人） ※清須市調べ	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	59,381	35,786	46,299	74,120	84,095
清洲ふるさとのやかたでのおみやげ品販売額（千円）※清須市調べ	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	12,607	7,185	10,553	19,418	28,515

### ○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）

- 清洲城、キリンビール名古屋工場等の特定の施設見学のみで周遊せずに終わってしまう点が、清須観光の構造的な課題となっている。このことが、飲食等での観光消費に結びついていないことで、結果的に市内事業者への恩恵が限定的である。
- まちの観光・産業賑わいプロジェクト費（地方創生推進交付金充当事業）では、上記の課題に鑑み、観光周遊の仕組みと魅力ある特産品（定番グルメを含む）の開発によって、観光消費の拡大を図る方向性を公民で共有・連携しながら事業を組み立てることを志向する。
- 清洲城は、今後、更なる誘客力を発揮して、清須の観光を牽引する役割が期待されており、当該施設の管理・運営のあり方については、民間活力を導入する方向性で検討を具体化していく段階に至っている。

## II 達成度指標の状況

※達成状況の凡例：目標値を10%以上上回る（見込含む）…◎、目標値を達成（見込含む）…○、目標値を達成できず（達成困難の見込）…▲、現状値を把握していない…ー

達成度指標	基準値	後期計画 目標値	実績値			目標値の 達成見込
			令和3年度	令和4年度	令和5年度	
市民満足度調査における満足度	20.5% (平成30年度)	↑ (令和5年度)	17.7% (令和3年度)	—	15.6% (令和5年度)	▲
休日の滞在人口率（各月の休日平均滞在人口 [14時] / 国勢調査人口の年平均）※	0.89倍 (平成29年度)	0.93倍 (令和6年度)	1.03倍 (令和3年度)	0.98倍 (令和4年度)	1.00倍 (令和5年度)	○
清洲城の入場者数（有料）	61,123人 (平成30年度)	85,000人 (令和6年度)	46,299人 (令和3年度)	74,120人 (令和4年度)	84,095人 (令和5年度)	○

後期計画期間の達成状況の分析

- 新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行後、全国的に不特定多数の人出を見込んだイベントが再開し、本市も新型コロナウイルス感染症の拡大前のようにイベントを開催することができた。今後も市民の理解が得られ満足していただけるようなイベントを進めていきたい。
- 清洲城の入場者数は新型コロナウイルス感染症の拡大前以上の数値となった。また、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行されたため、お出かけの需要も高まる中、NHK大河ドラマ「どうする家康」の影響も増加の要因と考える。また、イルミネーションを開催したことも入場者数が増加した要因の後押しをしている。

## III 令和5年度の主な取組結果

- きよすイルミ2023では清洲城で2回目となるプロジェクションマッピングをはじめ清洲城から古城跡公園及び名鉄新清洲駅前ロータリーとエリアを拡大してイルミネーションを行った。また、実施期間中は清洲城と清洲ふるさとのやかたの夜間臨時営業を実施した。訪日外国人向けや国内観光客に対し名古屋市内の観光案内所（名古屋駅、金山駅、栄地区）にきよスポットのリーフレットや清洲城観光チラシ、きよすイルミ2023チラシ設置を依頼した。
- NHK大河ドラマ「どうする家康」の放送終了間近頃に、清須市内の観光名所や企業、ご当地グルメを食することができるタクシーブランチを実施した。
- 観光協会の特産品開発として、信長カレーの野菜カレーと信長コミニチュア像を商品化し、ふるさとのやかたで販売を開始した。

## IV 事務事業評価

※達成状況の凡例：目標値を10%以上上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲

事業名	決算額（千円） [執行率（%）]		活動指標①			活動指標②		
	令和4年度	令和5年度	R5目標値	R5実績値と達成状況		R5目標値	R5実績値と達成状況	
観光誘客促進費	9,973 [90.4]	14,214 [90.9]	清洲城おもてなし業務の実施日数（日）	115	39 ▲	清洲城及び清洲ふるさとのやかたにおける「kiyosu Free Wi-Fi」への接続件数（件）	5,000	2,774 ▲
事業の有効性の評価	清洲城や清洲ふるさとのやかたを核とした事業を実施し、市内流入人口増加を図る。							
事業実施にあたり工夫した点	「きよすイルミ2023」については、世代問わず乗場したくような仕掛け（マッピングやイルミネーション、提灯等）や雰囲気づくりを行った。また、夜間にお城での物販やふるさとのやかた夜間営業、外では露店やキッチンカーなどが出展し、来場者へのおもてなしを充実させた。							
まちの観光・産業賑わいプロジェクト費	26,925 [90.5]	600 [100.0]	清洲城（有料）及びあいち朝日遺跡ミュージアムの入場者数（人）	134,000	150,352 ◎			
事業の有効性の評価	観光・産業振興を通じて、市内の中小企業が潤うための仕組みづくりを行い、また、併せて観光まちづくり主体である市観光協会の体制強化を図る。							
事業実施にあたり工夫した点	「きよすイルミ2023」において産官学が連携し、芸能の間などに学生が製作した作品を展示し、ライトアップするなどコンテンツを充実させ来場者の向上につなげた。							
レンタサイクル費	177 [60.6]	43 [39.5]	あしがるサイクルの利用者数（人）	500	227 ▲			
事業の有効性の評価	本市は広域アクセスは優れているが、域内移動に課題を抱えているため、清洲城を起点とした二次交通手段として、市内の観光名所への周遊や、それに伴う観光消費の創出を図る。							
事業実施にあたり工夫した点	清洲城周辺で実施したイベント（信長まつり・きよすイルミ）等を中心に機会をとらえて事業のPRを行った。							
観光協会事業費補助金	2,740 [100.0]	1,800 [100.0]	観光協会の会員数（人）	200	161 ▲	観光協会ホームページのアクセス件数（件）	120,000	123,535 ○
事業の有効性の評価	清洲城をはじめとした歴史的な地域資源や会員事業者の店舗情報の市内外へのPRを通じた観光誘客や特産品開発等を行っている清須市観光協会に補助金を交付し、事業基盤の安定化を支援する。							
事業実施にあたり工夫した点	市外でのイベントを中心に、過年度までに制作した観光情報発信コンテンツ（HP・冊子等）を有効活用しつつ、観光PRに注力した。							

## V 施策の評価と今後の方向性

- 新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行され、全国的にも本格的にイベントが再開される中、観光協会と清須ウォークのコラボ企画でご当地グルメの食べ比べできるイベントやイルミネーションやプロジェクションマッピングを活用したイベントも大変盛況であった。
- イルミネーションや桜時期などには清洲ふるさとのやかたやお城の夜間営業を積極的に行い、来場者数と売り上げの向上へつなげる事ができた。
- 観光消費におけるご当地グルメのPRも順調に周知でき、テレビやラジオなどでも取り上げられるなど功を奏し、観光客の市内の滞在時間延伸につなげる事ができた。しかしながら、今後も継続的な特産品開発などアイデアを提案し、いかに観光を後押しする事ができるかが課題である。
- 円安によるインバウンド需要が高まる中、訪日外国人をはじめ清洲城への来場者が増加が見込まれるため、ボランティアによる観光ガイドや武将隊と連携し、おもてなしの向上を図り清洲城集客力向上へつなげる。

# 令和6年度行政評価（令和5年度対象）シート

## 政策5 魅力に満ちた活力のあるまちをつくる

### 施策502 商業・工業の振興

主担当課：産業課

#### ○施策の目指す姿

商業・工業の振興と安定が図られ、中小事業者をはじめとする市内の商工業者がいきいきと活動しています。

#### ○施策の展開

- 1 商工会等への支援
- 2 高度先端産業立地の推進
- 3 企業の再投資への支援
- 4 資金融資制度の利用促進
- 5 創業に対する支援
- 6 東京圏から移住する起業・就業者に対する支援
- 7 オリジナル土産品の開発・情報発信

#### ○令和6年度 事務事業評価実施事業（令和5年度対象）

- 1 商工業振興事業補助金
- 2 中小企業金融対策費
- 3 首都圏人材確保支援事業費補助金
- 4 まちの観光・産業賑わいプロジェクト費

## I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況

### ○施策の関連データ

市内卸売業・小売業の事業所数※ 商業統計調査、経済センサス基礎 調査・活動調査	平成21年	平成24年	平成26年	平成28年	令和3年
	760	679	679	660	624
市内製造業の事業所数 ※※元・2：工業統計調査 ※※3：経済センサス活動調査 ※※4・5：経済構造調査	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
	189	186	192	252	252

### ○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、市内商工業者の経営状況や消費者心理に明るい見通しが立てられない状況が続いており、市として国・県とも連携しながら各種経済対策を推進している。
- 令和6年4月22日公表の東海財務局による愛知県内経済情勢では、「回復の動きに一服感がみられる」と総括しており、個人消費は持ち直している。生産活動は足踏みの状態である。雇用情勢は緩やかに改善しているが、企業の担い手不足感は強まっている状態である。
- 商工会は、小規模事業者支援法に基づく「経営発達支援計画」を策定し、同計画に基づいて小規模事業者の持続的発展を支援している。

## II 達成度指標の状況

※達成状況の凡例：目標値を10%以上上回る（見込含む）…◎、目標値を達成（見込含む）…○、目標値を達成できず（達成困難の見込）…▲、現状値を把握していない…ー

達成度指標	基準値	後期計画 目標値	実績値			目標値の 達成見込
			令和3年度	令和4年度	令和5年度	
市民満足度調査における満足度	15.1% (平成30年度)	↑ (令和5年度)	15.6% (令和3年度)	—	23.0% (令和5年度)	◎
市内の民営事業所数	2,495事業所 (平成28年6月1日)	→ (令和6年度)	2,501事業所 (令和3年度)	—	—	—
市内の民営事業所の従業者数	28,535人 (平成28年6月1日)	↑ (令和6年度)	28,893人 (令和3年度)	—	—	—
創業支援事業による創業件数	18件 (平成30年度)	25件 (令和6年度)	16件 (令和3年度)	29件 (令和4年度)	11件 (令和5年度)	▲

後期計画期間の 達成状況の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新型コロナウイルス感染症の拡大により地域経済が低迷し、ビジネスチャンスの機会が減少している状況ではあるが、ビジネスの在り方や働き方改革など、社会情勢に合わせた方法や内容のビジネスチャンスが求められる。</li> <li>■ 新型コロナウイルス感染症の拡大で傷ついた市内事業者を支援する仕組みや商品券事業を活用した消費喚起をきっかけとする地域経済の活性化など、市民が市内でお金を回す循環型の仕掛け作りを構築する必要がある。</li> </ul>
--------------------	--

## III 令和5年度の主な取組結果

- 【清須げんき商品券】  
令和4年度に引き続き、30%のプレミアム付商品券事業を実施した。スーパーやドラッグストアに利用が集中しないように、零細事業者での利用を促すため、「マル得商品券」10%を進呈した。また、利用特典を設けた零細事業者をチラシで大きく扱う等のPR支援を実施することで、本事業の効果を参画店舗が幅広く享受できるように努めた。
- 【清須からあげまぶし】  
令和3年度からご当地グルメとして誕生した「清須からあげまぶし」は、令和5年度には1事業者が新規参入し、現在、8事業者9店舗で提供をしている。また、清須ウオークと観光協会のコラボ企画ではからあげまぶし1店舗分のお食事券がついたコースに747名のうち409名の方が応募いただきました。食べ比べができるように7事業者の協力のもと、清洲城広場に出店し賑わい創出を演出できた。

## IV 事務事業評価

※達成状況の凡例：目標値を10%以上上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲

事業名	決算額（千円） [執行率（%）]		活動指標①			活動指標②		
	令和4年度	令和5年度	R5目標値	R5実績値と達成状況	R5目標値	R5実績値と達成状況	R5目標値	R5実績値と達成状況
商工業振興事業補助金	30,012 [100.0]	30,010 [100.0]	商工会の会員数（人）			商工会が主催する講習会等の開催回数（回）		
			1,450	1,450	○	60	174	◎
事業の有効性の評価	市内小規模事業者の経営並びに技術の改善及び発達の指導の推進を図るため、商工会が行う事業の経費に対して補助金を交付し、地域商工業の振興及び安定を図る。							
事業実施にあたり工夫した点	新型コロナウイルス感染症の影響で、商工会事業を縮小せざるを得ない中、商工業振興・消費喚起施策として、市が行った商品券事業（清須げんき商品券）では、参画事業者の募集・換金等業務で市と商工会とで緊密に連携し、事業の迅速かつ着実な実施につなげた。また、イルミネーション事業は大変好評であり、規模を拡充して行う状況にあっても連携を迅速に行うことができた。							
中小企業金融対策費	109,041 [98.0]	108,441 [88.2]	商工業振興資金融資の信用保証料に対する助成件数（件）			小企業等経営改善資金融資の利子に対する補助件数（件）		
			130	43	▲	20	0	▲
事業の有効性の評価	愛知県小規模企業等振興資金融資制度要綱に基づき、中小企業者が融資を受ける場合に必要な信用保証料や利子を助成することにより、中小企業者の借入負担を軽減し、中小企業の振興に寄与する。							
事業実施にあたり工夫した点	物価高騰に苦しむ中小企業者からの問い合わせに対して、セーフティネット保証とあわせて本市制度も案内し、利用の促進を図った。							
首都圏人材確保支援事業費補助金	0 [0.0]	0 [0.0]	首都圏からの移住者に対する補助件数（件）					
			1	0	▲			
事業の有効性の評価	生産年齢人口が首都圏へ集中している現状を打開することが地方創生機運の発端であり、本事業はまさに直接的に首都圏人材を地方へ還流するための取組として、相談窓口を設けている意義は大きい。							
事業実施にあたり工夫した点	昨年度は相談が1件もなかった。							
まちの観光・産業賑わいプロジェクト費	26,925 [90.5]	600 [100.0]	清洲ふるさとのやかたでおみやげ品販売額（千円）			オリジナル土産品の開発数（件）		
			13,000	28,514	◎	2	2	○
事業の有効性の評価	観光・産業振興を通じて、市内の中小企業が潤うための仕組みづくりを行い、また、併せて観光まちづくり主体である市観光協会の体制強化を図る。							
事業実施にあたり工夫した点	オリジナルお土産品の開発については、信長公のミニチュア像と信長カレーの野菜カレーを商品化。信長像は青銅を流し込む砂型を作成する時に顔の凹凸が出るように打合せを行った。また、信長カレーの野菜カレーは見た目の野菜感を崩さないように製造した。							

## V 施策の評価と今後の方向性

- 新型コロナウイルス感染症対策の一つである、市独自の経済対策として好評を得ている清須げんき商品券事業を継続することで、地域経済の消費喚起を図った。
- NHK大河ドラマの影響もあり、お城の入場者数が増え、同時にふるさとのやかたへの来館者も増えている。おまつりやイルミネーションなどのイベントに併せてお城やふるさとのやかた夜間営業を実施したため、やかたの売り上げも増加傾向にある。
- ご当地グルメである「清須からあげまぶし」がメディア等にも取り上げられて注目を集めているため、今後の参加店舗をいかに拡充していくかが重要である。
- 観光協会と清須ウオークのコラボ企画を実施し、ご当地グルメの「清須からあげまぶし」のお食事券のついたコースには、747名のうち409名の方が参加し、当日、清洲城広場では食べ比べすることができるイベントも実施し、大変好評を得た。今後は、他の事業と一緒にするなど思考をこらしたイベントを行うなどして、集客につなげて行く必要がある。
- 観光協会オリジナルお土産品の開発については、令和4年度に清洲公園にある織田信長公の銅像をデータ化し、令和5年度に重さ3.5kg、高さ26cmの信長公のミニチュア像を商品化した。また、信長カレーをポークとビーフを販売しているが、第3弾として野菜カレーを販売開始した。今後、イベントなどで商品PRして行く必要がある。

# 令和6年度行政評価（令和5年度対象）シート

## 政策5 魅力に満ちた活力のあるまちをつくる

### 施策503 都市近郊農業の振興

主担当課：産業課

#### ○施策の目指す姿

農地の多面的機能を生かして、都市開発と均衡の取れた農業の振興が図られ、農家だけでなく市民全体がその利益を享受しています。

#### ○施策の展開

- 1 農業関係団体等への支援
- 2 耕作放棄地対策の実施
- 3 農業体験の機会提供
- 4 食育の推進
- 5 農業用施設の整備
- 6 農地等保全活動への支援

#### ○令和6年度 事務事業評価実施事業（令和5年度対象）

- |               |         |
|---------------|---------|
| 1 農業振興対策事業補助金 | 3 食育推進費 |
| 2 農業体験塾費      | 4 土地改良費 |

## I 施策の関連データ・施策を取り巻く状況

### ○施策の関連データ

総農家数（戸）※世界農林業センサス、農林業センサス	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	令和7年
	754	683	546	425	実施予定
経営耕地面積（ha）※作物統計調査	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	254	248	238	233	231

### ○施策を取り巻く状況（基本計画策定時からの変化など）

- 農業従事者の高齢化及び世代交代により、農業協同組合等への業務委託及び農地転用が増加し、経営耕作地面積は減少している。国の施策である農地中間管理機構への貸し出しは例年数筆あるが、新規参入者はおらず、問題解決には至っていない。
- 市街化区域に残された農地では、都市化の進行により、ますます農業がしにくい状況になってきている。一方、都市農業振興基本法が平成27年に施行され、防災空間の確保、良好な景観の形成、農業体験の場の提供など、農地がもつ多様な機能が見直されてきている。

## II 達成度指標の状況

※達成状況の凡例：目標値を10%以上上回る（見込含む）…◎、目標値を達成（見込含む）…○、目標値を達成できず（達成困難の見込）…▲、現状値を把握していない…-

達成度指標	基準値	後期計画目標値	実績値			目標値の達成見込
			令和3年度	令和4年度	令和5年度	
市民満足度調査における満足度	13.5% (平成30年度)	↑ (令和5年度)	13.8% (令和3年度)	-	23.0% (令和5年度)	◎
地産地消を心がけている市民の割合	34.7% (平成30年度)	↑ (令和5年度)	33.1% (令和3年度)	-	32.6% (令和5年度)	▲
市内の耕作放棄地面積	34,880㎡ (平成30年度末)	28,000㎡ (令和6年度末)	49,795㎡ (令和3年度末)	60,044㎡ (令和4年度末)	68,058㎡ (令和5年度末)	▲

後期計画期間の達成状況の分析

- 市内の耕作放棄地面積の減少に向けて、農地パトロールを強化し、土地所有者に対して農地の適正な管理をお願いしていく。
- 清須市の特産野菜については、市内の小中学校の一部においてPRには努めているが、まだ市場に出回る数が少ないこともあり、市民の目に触れる機会が少ない。今後地産地消を心掛けている市民の割合の増加に向けてさらなるPRが必要である。
- 地産地消の事業として、『飴茶庵』『きよすふるさとのやかた』で地産地消の推進や空き店舗活用を目的とし、農業体験塾で採れた野菜を販売した。

## III 令和5年度の主な取組結果

- 【農業振興対策事業補助金】  
地区実行組合に対して集落活動推進のための補助を実施した（組合49件、組合員945戸）。
- 【農業体験塾】  
次世代の農業者の育成を図り、農業の機会を提供するため、農業体験塾を開催した。16名が参加し、土づくり、野菜の苗植えから収穫までを行った。
- 【食育推進費】  
食育推進のため、食育まつりを開催し、さらには、春日小学校3年生3クラスで宮重大根の種まきから収穫までの体験授業の実施、土器野保育園年長児はさつまいもの苗植え及び収穫体験、花水木保育園他市内6保育園の年長児に宮重大根の収穫体験を実施、新川中学校では土田かぼちゃを使用した料理教室を2年生5クラスにて行った。

## IV 事務事業評価

※達成状況の凡例：目標値を10%以上上回る…◎、目標値を達成…○、目標値を下回る…▲

事業名	決算額（千円） [執行率（%）]		活動指標①			活動指標②		
	令和4年度	令和5年度	R5目標値	R5実績値と達成状況		R5目標値	R5実績値と達成状況	
農業振興対策事業補助金	1,458 [99.6]	1,450 [99.5]	地区実行組合員数（世帯）					
			938	945	○			
事業の有効性の評価	各地区の実行組合に対して集落活動の推進のための補助を実施することにより、営農環境の充実が図られ、農産物の品質向上や農業経営の安定につなげることができる。							
事業実施にあたり工夫した点	補助金の用途を限定せず、各地域の課題に対応した幅広い使途に利用できる制度とすることにより、集落の活性化につなげることができた。							
農業体験塾費	445 [99.9]	491 [99.9]	農業体験塾の塾生数（人）					
			20	16	▲			
事業の有効性の評価	農協講師並びに農家等の指導のもと1年を通して季節の露地野菜などの栽培技術を習得することができる。併せて食の大切さや収穫の喜びを体験させるとともに、地元の特産野菜の栽培および普及に努めることができる。							
事業実施にあたり工夫した点	参加者が減少しているため、作付面積等を少なくし対応した。また、次年度以降は、塾生が主体となり運営できるよう、研修会等を実施し、栽培技術の向上につながる事業を実施する予定である。							
食育推進費	1,154 [73.0]	1,658 [97.0]	野菜収穫体験・料理教室の開催回数（回）			食育レポートの発行回数（回）		
			12	18	◎	4	4	○
事業の有効性の評価	市民一人ひとりが、食に関心をもち、食の大切さを学び、食文化の理解を深め、自然の恵みや感謝の心を育む「食育」の実現に繋がるよう、若い世代からの食育推進を行うことで、将来を見据えた食育推進を実施することができる。また清須市産の特産野菜を振興することにより、食を通してふれあい、育みあう街づくりの実現を目指した活動もできる。							
事業実施にあたり工夫した点	保育園児の農業体験を市内保育園の8校で行うことにより、より多くの園児に農業体験を行った。また、中学生の料理教室は、4年振りに開催することが出来、食生活改善推進協議会の皆様にご協力いただき滞りなく実施することができた。							
土地改良費	75,066 [96.5]	71,732 [99.9]	用排水路の整備延長（m）					
			500	172	▲			
事業の有効性の評価	寺野地区、西田中寺野地区、西牧・新田地区、富士塚用排水路地区等において、用排水路の整備等を実施することにより、農業環境が充実し、農業生産性の向上を図ることができる。							
事業実施にあたり工夫した点	用排水路の整備等にあつては、設計段階から事業費の縮減を図りつつ、事業効果を最大限高めることに努めた。また、補助金を活用するなど事業実施に係る財源確保を行った。							

## V 施策の評価と今後の方向性

- 市内の耕作放棄地面積の減少に向けて、農地パトロールを強化し、土地所有者に対して農地の適正な管理をお願いしていく。
- 市民への農業への理解を深めるため、農業体験塾の開催やレジャー農園等の利用を促進する。
- 新規農業者の増加に向けて、農業体験塾で技術を習得した塾生を就農につなげていくための取組を進める。
- 市内の小中学生・保育園児に清須市の伝統野菜の理解を深めてもらうために、農業体験及び料理教室を実施していく。
- 市民が食育を学ぶ場として食育レポートを作成しホームページに掲載していく。  
土田かぼちゃが愛知の伝統野菜に認定されたことにより、知名度が上がったので、これを機に市内店舗での販売ができるように販売促進に努めていく。

